

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 日米琉諮問委員会 (代表会合第121回～140回) (7)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米琉諮問委員会, 審議概要, 勧告41, 土地区画整理事業, 土地改良事業, 琉球開発金融公社, 琉球政府移管, 調査団, 鈴木日銀監事, 金融調査団, 琉球開発公社, 沖縄の金融機構 キーワード (En): Recommendations 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43737">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43737</a>

第一三七回

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 40396  
69年9月12日13時53分 ナハ 発着 米北1  
69年9月12日15時08分 本省 着

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

諮問委員会(連)

ネ73号 平(秘極)

12日、ネ137回会合。

1. プロGRESSレポート邦文印刷会社への発注と決定した。  
印刷完了は25日の予定。

2. リストアップした提案項目52のうちプロポーザル・ステージにある14項目を除いた38項目につき、総務小委員会米側委員が起草順位を決めたリストを作成中であるが、ショットは個人的見解として本年末までに能う限り多数の勧告を行いたいとの希望を表明、全頁これ

外務省

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

に合意した。

3. さきに立法院を通過した駐留軍関係離職者等臨時措置法は今明日中、主席の署名が行なわれる模様であるが、本法はアドコム勧告ヤ16号「軍関係離職者対策」が法制化されたものとして甚だしい旨を記録に残した。

4. 琉政代表より「南西航空による沖縄・鹿児島間定期航空路開設」勧告案文が上程され、各代表の検討方要請した。

本件については琉側より強く実現を望む旨および本使の斡旋を請う趣旨の発言があった。(案文別送)

(3)


-2-

外務省

別添  
本信。田中書記官保管

公 信 第 74 号  
昭和 44 年 9 月 13 日

外務大臣臨時代理  
佐 藤 栄 作 殿

日米琉航商委員会日本政府代表  
高 瀬 待 

送付案文「南西航空会社による鹿児島定期  
航空路線の開設について」の送付

要処理  
名  
宛  
送  
附  
注  
課  
カ  
印

往電第 73 号の 4, をもつて通報申し上げた標記勸告案文を  
別添のとおり送付申し上げますので、御検討のうえ貴見御回答願  
います。

付 添 添 付  
本信写送付先 総理府総務長官

  
44.9.16

勸告案  
琉球列島高等弁務官に対する諮問委員会  
沖繩那覇

1969年9月12日  
(琉球政府代表提出)

首 題： 南西航空会社による鹿児島定期航空路線の開設について

- 1 沖繩、鹿児島間の航空旅客は年々大幅に増加しており、今後においても益々増加することが予想されるので、南西航空会社が沖繩、鹿児島間の航空路線を開設することは、この増加すると予想される旅客への利便を増進するだけでなく本土と沖繩間の文化、経済の交流発展に大きく寄与するとともに、現在各種の悪条件の下に低稼働率で経営している南西航空会社の経営基盤を強化することができるものと思われる。
- 2 現在該航空路線は全日本空輸会社が就航しているが、同社が沖繩路線を開設した当時、沖繩側は全日空社と沖繩の航空社の相互乗り入れを希望し、鹿児島側からも同様趣旨の申入れがあつた。南西航空会社ではこのような立場から、琉球政府及び民政府に該航空路線開設の免許申請書を提出し、琉球政府は日本政府の総務長官と運輸大臣あてに同申請書を副えてこれが実現方について要請済みである。

首 題： 南西航空会社による鹿児島定期航空路線の開設について

- 3 諮問委員会は、検討の結果、本件の早期実現が望ましいということに意見の一致をみた。
- 4 よつて、諮問委員会は、高等弁務官が本件の実現について適切な措置をとるよう勸告する。

Draft Recommendation

12 September 1969

GRI Representative

MEMORANDUM FOR: THE HIGH COMMISSIONER OF THE RYUKYU ISLANDS

SUBJECT: Opening of the Kagoshima-Naha Scheduled Line by the Southwest Air Lines

1. The number of air passengers between Kagoshima and Naha has shown a remarkable increase each year, and it is expected that the rate of increase will be greater in the future. Therefore, it is considered that opening of the Kagoshima-Naha scheduled line by the Southwest Air Lines will offer greater convenience to the increasing passengers. It will also contribute significantly to the cultural and economic exchange between Okinawa and the mainland as well as to strengthening of the management of the Southwest Air Lines whose rate of operation is low under various unfavorable conditions.
2. At present, the All Nippon Airways (ANA) is the only line plying between Kagoshima and Naha. When the ANA established its Okinawa line, the Okinawan side indicated its desire that an Okinawan air line be given permission to enter its service on the basis of the "mutual benefits" principle upon request in the future. The same desire was expressed also by the concerned groups of Kagoshima. From this standpoint, the Southwest Air Lines filed an application for the license for opening of the line with the USCAR and the GRI. The GRI forwarded copies of the application to the Director General of the Prime Minister's Office and the Minister of the Transportation Ministry of the GOJ requesting their favorable considerations for the realization of this matter.

SUBJECT: Opening of the Kagoshima-Naha Scheduled Line by the Southwest Air Lines

3. As a result of study, the AdCom agreed that it is desirable to realize the subject matter as soon as possible.
4. Therefore, the AdCom recommends that the High Commissioner take appropriate measures for the realization of this matter.